

概要

序論

日本語では、文の中に意味を示す機能を持つ「助詞」がある。その為に、助詞の使用はとても大事である。助詞は色々ある。その中に「格助詞」と「接続助詞」がある。益岡と田窪(1993: 49-53)によると、「格助詞」は述語と説明語の関係を表して、引用を説明する。一方、益岡と田窪(1993: 49-53)によると「接続助詞」は一つの文の中に節と節を結ぶ機能を持って、普通で用言に付く。

この分析は格助詞と接続助詞の一つである「と」という助詞について述べる。使い分けでは、文の中に、格助詞の「と」と接続助詞の「と」は共通点と相違点があるが、使い方が違う。牧野・筒井 (2002: 474-483)によると格助詞の「と」は引用を示す機能、述語か意見の内容を示す機能、名詞と名詞を比較する機能を持っている。接続助詞の「と」は名詞を同等の名詞と連携する機能と、述語の基本の形を連携する機能を持っている。

文の中の意味と使い分けを説明する為に、この分析は記述方式を使う。理論とデータを集める為に、雑誌と漫画を調べる方式を使う。

本論

日本語では、格助詞と接続助詞の一つである「と」を使う文は使い分けで共通点と相違点を持っている。一般的に、格助詞の「と」を使う文

では「と」は動詞の前に付くが、接続助詞の「と」は動詞の後に付く。下記は事例とその説明になる:

1. (23) A : 調子はいかがですか。

B : 昨日と変わらないよ。(PCL06, 2005: 200)

文 1 では「変わらない」という動詞の前に付く格助詞の「と」がある。その格助詞の「と」は付いた動詞を説明する機能を持っている。

2. (15) リハビリしても治らないと聞いて、取り乱してしまいました。(PCL06, 2005: 141)

文 2 では「聞いて」という動詞の前に付く格助詞の「と」がある。その格助詞の「と」は付いた動詞を説明し、その動詞を受動的な動詞にする機能を持っている。その使い方は接続助詞の「と」と違う。つまり:

3. (21) 冷たい物を食べ過ぎると、子供の場合、腹痛を起こすことがあります。(PCL06: 2005: 87)

文 3 では、「食べ過ぎる」という動詞の後に付く接続助詞の「と」があって「冷たい物を食べ過ぎる」というの節 1 と「子供の場合、腹痛を起こすことがあります」という節 2 を結ぶものになる。

4. (22) 夜、歩き回ると危険です。(JN11, 2005: 7)

文 4 では、「歩き回る」という動詞の後に付く接続助詞の「と」がある。上記の文では、動詞は 1 つしかないので、接続助詞の「と」は単文にでてくる。

格助詞の「と」を使う文と接続助詞の「と」を使う文は共通点を持っている。つまり、名詞と名詞の間で出てくることである。その共通点は下記の文に見られる。：

5. (38) 和食と洋食と、どちらがいいですか。(HH,1978 : 67)

N1 N2

文5では、格助詞の「と」は名詞と名詞の間に付いている。その格助詞の「と」の機能は、名詞1 (N1) と名詞2 (N2) を比較する為である。

6. (19) 在校生と卒業は、「浅井プロダクション」「類プロダクシ

N1 N2

ョン」などの関連プロダクションに所属してプロ活動を致します。

(PCL06, 2005: 174)

文6では、接続助詞の「と」は名詞と名詞の間に付いている。その文の接続助詞の「と」は同等の名詞を並べる為である。

結論

文での使い分けでは、格助詞の「と」は単文に使われていて、接続助詞の「と」は単文と複文に使われることができる。格助詞の「と」を使う文では、格助詞の「と」は一般的に、動詞の前に付くか、名詞と名詞の間に付く。格助詞の「と」を使う文では、格助詞の「と」は引用を説明する機能、相互関係を示す機能（「～結婚する」、「～話し合う」、「～違う」、「～ぶつかる」、「～同じだ」等という動詞に使う場合）、付いた動詞を説明する機能と、名詞と名詞を比較する機能を持っている。一方、

接続助詞の「と」を使う文では、接続助詞の「と」は動詞の後に付くか、名詞と名詞の間に付く。接続助詞の「と」を使う文では、接続助詞の「と」は節と節か述語の基本の形を結ぶ機能と、同等の名詞を並べる機能を持っている。

DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR.....	i
DAFTAR ISI.....	iv
BAB I: PENDAHULUAN.....	1
1.1 Latar Belakang Masalah.....	1
1.2 Rumusan Masalah	8
1.3 Tujuan Penelitian	8
1.4 Metode Penelitian dan Teknik Penelitian	8
1.4.1 Metode Penelitian.....	8
1.4.2 Teknik Penelitian	9
1.5 Organisasi Penulisan	10
BAB II: KAJIAN TEORI.....	11
2.1 Sintaksis	11
2.1.1 Definisi Sintaksis	11
a. Kata (言葉, <i>kotoba</i>)	12
b. Frase (句, <i>ku</i>).....	13
c. Klausa (節, <i>setsu</i>)	15
d. Kalimat (文, <i>bun</i>)	16
2.1.2 Kalimat Tunggal.....	17
2.1.3 Kalimat Majemuk	17
2.2 Semantik.....	19
2.2.1 Definisi Semantik.....	19
2.3 <i>Hinshibunrui</i>	22

2.4 <i>Joshi</i>	26
2.5 <i>Kakujoshi</i> と	29
2.6 <i>Setsuzokujoshi</i> と	30
BAB III: ANALISIS DATA	33
3.1 <i>Kakujoshi</i> と	35
3.2 <i>Setsuzokujoshi</i> と	47
3.3 Rangkuman Analisis	59
A. Kalimat yang termasuk <i>Kakujoshi</i>	59
B. Kalimat yang termasuk <i>Setsuzokujoshi</i>	63
BAB IV: SIMPULAN	66
DAFTAR PUSTAKA	70
LAMPIRAN I	vii
LAMPIRAN II	xvi
SINOPSIS	xxv
DAFTAR RIWAYAT HIDUP	xxx